

ほんがいっぱい よんでみよう！



5・6年生のための本

① 『ぼくとベルさん』

フィリップ・ロイ／著 榎田理絵／訳 PHP研究所《Fロ》

ぼくは、エディ。10才になったけど、読み書きができない。だから、まわりのみんなより、ぼくの方がかしこいのに、それを証明することができなかった。でも、ある日、発明家のベルさんと出会って、すべてが変わったんだ。



② 『珍獣ドクターのドタバタ診察日記』

田向健一／著 ポプラ社《64》

小さなカエルに人工呼吸、巨大ガメの甲羅を開けて大手術。「目の前のどんな動物でも助けたい。」そんな情熱を持ち、日々やってくる「珍獣」ペットの治療に、手作りの道具やオリジナルの手術方法で挑む、珍獣ドクター・田向先生の悪戦苦闘の物語です。



ところざわしりつところざわとしょかん
所沢市立所沢図書館 2018年

③ 『わたしの苦手なあの子』

朝比奈蓉子／作 酒井以／絵 ポプラ社《Fア》

転校生のリサはいつもつんとしていて、ミヒロはそんなリサが苦手だった。ところがある日、リサの秘密を知ってしまい、それからリサのことが気になっていた。夏休みの宿題は苦手なものを克服すること。ミヒロはリサを克服することにした。



④ 『ぼくたち負け組クラブ』

アンドリュー・クレメンツ／著 田中奈津子／訳 講談社《Fク》

アレックは本が大好きな男の子です。同じく本好きのニーナと一緒に、だれにも邪魔されずに本が読める読書クラブを作ることになりました。その名も「負け組クラブ」。この名前だったら誰も入ってこないと思っていたアレックですが、次々と新しい仲間がやってきて…。



⑤ 『涙倉の夢』

柏葉幸子／作 青山浩行／絵 講談社《Fカ》

お母さんとおばあちゃんが買ったという倉は、涙倉と呼ばれる倉だった。夏休みに、おばあちゃんとその倉に入った亜美は、何もないはずのところであつづいた。そして、顔を上げると、倉の2階から知らない男が降りてきた！

⑥ 『ぼくらは鉄道に乗って』

三輪裕子／文 佐藤真紀子／絵 小峰書店《Fミ》

悠太が住んでいるアパートに越してきたのは、時刻表を抱えた風変わりな女の子、理子。鉄道好きな悠太は、理子も鉄道好きなのかと思ったが、理子には鉄道に乗って行かなければならないところがあったのだ。

⑦『らくはなからできてるの?』

さとうてつや ぶん あみなか え
佐藤哲也/文 網中いづる/絵
ふくいんかんしょてん
福音館書店《58》

どうぶつ け むし しよくぶつ
動物の毛、虫のマユ、植物などから「せんい」をとりだし、つむいで、おって、ぬって…こうしてみんなの服が生まれます。今着ている服はなからできているのかな?この本を読みながら、洋服についているタグを見してみるのも面白いですよ。

⑨『拝啓、お母さん』

さわ みずえ さく かんべあやこ え
佐和みずえ/作 かんべあやこ/絵 フレーベル館《Fサ》

しょうがく ねんせい なか あか
小学4年生のゆなは、お腹に赤ちゃんがいるお母さんが入院することになり、九州のじいじの家でしばらくくらすことに。なぜ、自分だけがという思いから、お母さんに投げつけてしまったことば、でも、じいじの仕事である活版印刷を手伝ううち、ゆなの心にも変化が…。



⑩『タイガー・ボーイ』

え ながせひな やく すずきしゅつばん
ミタリ・パーキンス/作 ジェイミー・ホーガン/絵 永瀬比奈/訳 鈴木出版《Fパ》

ほ ごく に だ こ かね
保護区から逃げ出したトラの子を、金もうけのために悪いやつがつかまえてしようとしている!悪いやつより先に、トラの子を見つけないと。大好きな島のはなはぼくが一番よく知っている。5年生のニールは、トラの子を探すため、手作りの地図をもって、姉さんと夜中にこっそり家を出た。



⑧『ひらけ蘭学のとびら』

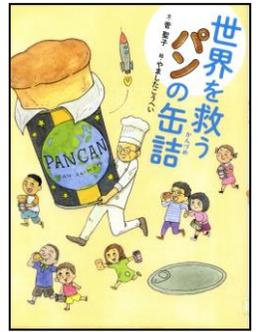
らんがく せかい すく かんづめ
なるみふう ちよ せきやとしたか が
鳴海風/著 関屋敏隆/画
いわさきしょてん
岩崎書店《28.9》

え どじだい いし すぎたげんぱく すす
江戸時代の医師・杉田玄白。進んだ医学を学びたいと考えていた彼は、オランダの医学書『ターヘルアナトミア』を手に入れた。処刑された罪人の解剖に立ち合い、その解剖図の正確さに衝撃を受ける。玄白は仲間の医師たちと、翻訳を手がけることにしたが…。

⑪『世界を救うパンの缶詰』

すげせいこ ぶん え ほん
菅聖子/文 やましたこうへい/絵 ほるぷ出版《58》

ちい や はつめい かんづめ
小さなパン屋さんが発明した「パンの缶詰」。いまや日本の被災地だけでなく、飢えに苦しむ世界の子どもたちにも送られています。長持ちして、しかもやわらかくておいしいパンを作るため、100回以上の実験と失敗を乗り越えて誕生しました。



⑫『空を飛ぶ昆虫のひみつ』

ほしてるゆき しゃしん ぶん しょうねんしゃしんぶんしゅ
星輝行/写真・文 少年写真新聞社《48》

おな こんちゅう
同じ昆虫でも、トンボとチョウの飛び方はちがう。それは、はねの動かし方がちがうから。4枚のはねを、トンボはバラバラに小さみに動かすけれど、チョウは同時にゆったり大きく動かしているんだ。いろいろな昆虫の飛び方のひみつをさぐってみよう。

⑬『髪がたぐ物語』

べつしよしこ ちよ ぶんけんしゅつばん
別司芳子/著 文研出版《36》

みなさん、ヘアドネーションという言葉を知っていますか?切った髪の毛を、病気などで髪の毛を必要としている人のために、寄付する活動のことです。その活動がどのように行われているのか、具体的に紹介していきましょう。

⑭『たまげたトッケビ 韓国の昔話』

かんこく わかしはなし
かみやにじ へん やく え
神谷丹路/編・訳 チョン・スンガク/絵
ふくいんかんしょてん
福音館書店《M》

ある晩、トッケビは酒がほしくなりキムさんに金を借りた。まぬけなトッケビはつぎの日から毎晩金を返しにきて、キムさんはたちまち大金持ちに。失敗に気づいたトッケビは、くやしがつて仕返しをするが…。

⑮『おもしろからだことば 頭編』

あたまへん
いしづ ぶん いしいきよたか え そうどぶんか
石津ひろ/文 石井聖岳/絵 草土文化《81》

おじいちゃんは頭がかたい。おばあちゃんはぼくのことを、目にいれてもいたくないって言う。こんなふうからだの一部を使ったことばが「からだことば」。では、耳が早いってどんな意味かわかる?